-	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)	技術・助除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考) 令和5年産の品種構成の情報
区分	平年、指標等に対する運建等	(全国) 春からエルニーニョ現象が続いているとみられる。 今後、秋にかけてエルニーニョ現象が終く可能性が高い	市和B年座の高極構成の情報
(生育)	【生育状況 (7月1日現在)】 (全選)生育は平年よりやや早く進んでいる。(北海道農政部 7月6日付) (空知)生育はやや早く進んでいる。(北海道農政部 7月6日付) (石字)高温多郎により、分げつの発生が旺速となり原育が進んだ。(石字無関局 7月6日付) (後患) 道道注目 (日本記を発展局 7月6日付) (国語)高温・多郎で生育が進んだため、生育はやや思い。(国施総合集興局 7月6日付) (日高)生育は成本年間に発むしている。(日高集明) 7月6日付) (1億山)生育は平年生に発している。(日本原明) 7月6日付) (1億山)生育は平年生いをやいる。(日本原明) 7月6日付) (1月川)生育は平年よりや中く(後別、(権以展現局 7月6日付) (第四)生育は平年より中や早く進んでいる。(国務展開局 7月6日付) (オホーツク) 対大により、全質は平本よりや中く(進んでいる。(日本原明)	(99%)。 (東京庁 7月10日代) (南こう1か月の天候の夏邑 7月2日2年8月21日] 北海道地方の南こう1か月の平均気温は高い見込み。 時末2日間時間は、ほぼ平年並の見込み。 (東京中域形成大阪内見造し 7月~9月) (南こう3か月の天板の見造し 7月~9月) 北海道地方の同こう3か月の中均気温は、ほぼ平年並の見込み。 同太常道がある向こう3か月の中均気温は、ほぼ平年並の見込み。 (東京中域形成大阪内間である。 (東京中域形成大阪内間である。 (東京中域形成大阪内間である。 (東京中域形成大阪内間である。 (長野内間である。)	「ななつぼし」及び 「かめびりか」を中心 とする品種類なたっており、主要品種に大きな 変化はみられない。  (厳林水産者令和5年3月15日 (出典資料は以下同じ)      「は典資料は以下同じ)      「おなつが、またいでは
(生育)	「はれわたり」生育概況 (7月14日時点) ・飛全体の事文は73.7cm (前年比98)、㎡当たり圣教は471本 (前年比104)、業色値は38.3 (前年差十0.1) で順間に生育している。 ・幼穂形成期は7月7日で前年より2日早まっており、出穂期は7月末~8月始めとなる見込み。 (青森県「農なび青森」7月20日付)	(前こう1か月の天候の要遇し 7月22日~8月21日) 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い気込み。 両水金と日間物物は、ほぼ平年並の走込み。 (気条が他を形気系念) (向こう3か月の天候の見逃し 7月~8月7) 東北地方の向こう3か月の予助気温は、ほぼ平年並の見込み。 両水塩は、ほぼ平年並の更込み。 (気条が他も形気系念) 東北太平洋側は7月6日頃からかなりの高温。 (他台部気条金) 向こう1か月4以下がん、ニカメイガ、既急来カメムシ。 数結局の発生がらいと予想される。 (最林水産省 7月12日付)	- 「まっしぐら」及び 「つがるロマン」を中か とする品種構成となっ いる。
(生育)	[7月14日現在] 生育概況「ひとめぼれ」「あきたこまち」「銀河のしずく」「いわてっこ」 - 第文は、平年並一長い(平年整-1.6~4.2cm)。 - 篆敬は、平年並一長い(平年は 194-135%)。 - 実際は、平年並一多い(「平年は 194-135%)。 - 実際と (574)衛)は、平年第一成1・(平年第一の 3~2・5)。 - 著色 (574)衛)は、平年第一成1・(平年第一の 3~2・5)。 - 各品世 とも成ら平面に引移的成局に進している(平年第一1~40 日)。	(例こう1か月の天戦の見達し 7月22日~8月21日] 東北地方の向こう1か月の平均気型は高い登込み。 開水量と日間時間、採生平金の登込み。 (気象作他台管区気象台) (国こう3か月の一か3月の中均気温は、採従平年金の見込み。 (所入登1、ほぼ平年金の見込み。 (気象作他台管区気象台) 更北平平線は3月20日頃からかなりの高温。 (他台管区気象台) 向こう1か月4317分以、ニカメイガ、斑点米カメムシ、数結前の発生が多いと予想される。(最終水条名 7月12日付)	・「ひとめぼれ」及び 「あきたこまち」を中心 とする。最終期度となった。 である。「経河かりブルール である。「経河かり丁ルール が、耐冷に、 でいることから増加傾向 なっている。
(生育)	(万月10日現在) - 古川昌東広院禅の「ひとめぼれ」では、草文は58 2m (平年比113%) 1 所書たりの差数は585本 (平年比114%)、 素型は10 8数 (平年 14 6 6 8) ともってもり、平年と比較して東京は今色ないた。 ・ 物態表は2 6m (平年を16 8 8) ともってもり、平年と比較して東京は今色ないた。 ・ 物態表は2 6m (平年を16 8 8) ともってもり、平年と比較して東京は今色ないた。 ・ (宮城県 三年 17 7 7 8 8 8 9 8 9 8 9 8 9 8 9 8 9 8 9 8	(南こう1か月の天後の夏蓮し 7月22日~8月21日) 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 両水金と日間物館は、様は平年数の夏込み。 1気条件地を形式条約。 (南こう3か月の天後の夏蓮し 7月~9月) 東北地方の町にうかけの中間気温は、ほぼ平年並の夏込み。 (東倉町の間にうかけの中間気温は、ほぼ平年並の夏込み。 (東倉町の東京を) (東倉町の東京を) 東土平平側は7月20日頃からかなりの高温。 (仙台電気系巻) 南こう1か月代以7分以、ニカメイガ、斑点米カメムシ、 数枯柄の発生が多いと予想される。(集林水産者 7月12日付)	・「ひとめぼれ」を中心と する基準構成となって いる。
(生育)	(北秋田)多くのほ様で幼穂形成期に入っている。 (7月14日付) (建 勝)7月14日現在の定点調差 (あきたこまら8か所) 結果では、幕文はやや平年追からやや長めで原教と第色は平年差に推移している。 幼穂形成期に打7日2日間と見込者末、前年室に事むいことから、圣教は平年よりやや少なくなっている。 (7月14日付) (也 北)7月14日の定点開発機能を見たまます。 (7月14日付) (世 北)7月14日付の定点開発機能を見たいます。 (7月14日付) (山 本) 田穂スが早かったほ事では始節形成形を迎えている。 (7月14日付) (秋 田) (7月16日間) 「あきたこまら」の全質は東文が83 4cm (平年比108%)、圣教が494本/㎡ (同比102%)、果教が11.5葉 (同差+0.1葉)、SPADが42.2 (同比102%) となっている。 (7月14日付) (秋田県泉中大阪東安)	(向こう1か月の天後の夏遷し 7月22日~8月21日] 東土地方の向こう1か月の平均気息は高い見込み。 両本金と日無関側は、16年末生の見込み。 (気象介他ら世の気象の急し 7月~9月) 東土地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。   承末世末の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。 (気象介他ら管底気象合) 向こう1か月43ドブがル、ニカメイガ、斑点来カメムン、 数枯痢の発生が多いと予想される。(農林水産者 7月12日付)	・「あきたこまち」を中心 とする品種構成となって いる。
(生育)	(名村山) (7月10日既在) 【金飯的な傾向】 ・ (平年比) 事文: 概ね並、圣敷: やや少ない~並、黒敷: 並、薫色: やや淡い。(村山総合支庁を村山農業技術普及課 7月11日付) ・ (毎回川) (7月10日既在) ・ 条数は多い・ややかない、実数は生、薫色はやや違い~やや薄い。特に多数は依然として簡増問差が見られる。出穂別は平年よりやや早まの見込み。(山路県庄内総合支庁農業技術普及課 7月12日付) (西村山) ・ 出樹は平年並み~やや早い予想。(西村山農業技術普及課 7月11日付) (西護別) ・ 7月10日現在の生育診断圏の生育は、草文は平年並~長く、差数は品種による差が大きく、異数は平年並~やや少なく、葉色は並~やや淡い状況。今後も気温が高く境移する千種となっていることから、出穂別は平年より早まら予想。(西護陽真技術普及課 7月11日付)	[前にう1か月の天候の豊連」、7月22日~8月71日] 東之地方の向にう1か月の本的気量に高い第込み。 再本量と日無時間に、程年平年室の見込み。 (気象庁場合管区気象を) (同にう3か月の天候の見通し 7月~9月) 東北地方の向にう3か月の予閲気温は、ほぼ平年室の見込み。 時本計ではまった。 (気象庁場合管区気象を) 向にう1か月付北ドアが、ニカメイガ、斑点米カメムン、 数枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)	・「はえぬき」及び「つや 堀」を中のとする品種 構成とをでっている。 新品種「雪若丸」は増加 傾向にある。
(生育)	(農業総合センターの作柄柄析試験における7月4日現在の生育確況) ・金での諸吉得所で品種(「コンヒカリ」、「ひとめぼ礼」、「天のつぶ」)ともに、草文が平年より長く、 茎数7年年まからや少多く、主理整が千年より6、1-0-4枚多く、葉色が平年並。 (福島県豊林水産部農業援興課 7月10日付)	「例こう1か月の天教の見達し 7月22日~8月21日】 東北地方の向こう1か月の平均気量は高い望込み。 開水量と日間開始、採甲率をの登込み。 (気象作他台間区気象を) (同こう3か月の平均気温し 7月~9月) 東北地方の向こう3か月の平均気温は、採採平年室の見込み。 (系象作他台間区気象を) 東北市の側と10分月の平均気温は、採採平年室の見込み。 (本象作他台間区気象を) 東北市の開始は7月3日間間からかなりの高温。 (他台間区気象と) 向こう1か月4以下がル、ニカメイガ、斑点米カメムシ、 数結局の発生が多いとで増される。(集林灰高着 7月12日付)	・「コンヒカリ」及び 「ひとめばれ」を中心と する点種構成となった。 のないのでは、 のを扱うとなった。 のを扱うとなります。 のを扱うとなります。 でしており、 ることから加率はややだ 増加が見込まれる。
(生育)	【7月10日現在、水戸市】対平年返走 (5月10日移植) ・「あきたこまち」3日早い、「ふくまるSL」平年並、「コシヒカリ」平年並。 (5月10日移植)「コシヒカリ」平年並。 (茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月11日付) 【7月18日現在、程・傾南】対平年返走 (4月27日移植) 「あきたこまち」1日早い(出種房)、「ふくまるSL」3日早い(出種房)、「コシヒカリ」6日早い(出種房)。 (5月8日移植)「コシヒカリ」平年並 (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月19日付)	(向こう1か月の天候の見通し 7月22日~8月21日) 御東中衛地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 両水量と日無時間は、1227年豊の見込み。 (気象が) (南にうか月の天候の見通し 7月~9月) 御東甲衛地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 両水量は、平年並からり見込み。 (気象が) 御東甲衛地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気象が) 向こう1か月ニカメイガ、鏡葉枯病の発生が多いと予想される。 (機林水産者 7月12日村)	・「コンヒカリ」及び 「あきたこまち」を中心 とする品種構成で ない。 を 作付け移行が進んでいる
(生育)	【生育展況】 (7月6日調査) - 幕天は前回開走とり単社少なくなったが全動的に、前年より長い傾向。 - 草組ら シヒカリの多数はンドラッキが大きいが、前年第一やや多い。業色は前年並み。 - 草組ら ショウの多数はかやシャンは、薬色は前年は、大きない。 単位は あまる。 - 中組ら ショウの多数はかやシャンは、薬色は前年は、大きない。 単位は 新年 は 1000 を 2000 は 2000 を 1000	(南こう1か月の天枝の夏蓮し 7月22日~8月21日) 御東中田地方の向こう1か月の平ち気温に高い見込み。 海水金と日田時間は、ほぼ平年並の変込み。 (気系が) (高にう3か月の天枝の見速し 7月~9月) 御東中衛地方の前につ3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 河本側は、平年並からい見込み。 (気条が) 御東中衛地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気条が) 向こう1か月ニカメイガ、編集枯病の発生が多いと予想される。 (海米水佐条 7月12日付)	・「コシヒカリ」を中心と する品種構成となって いる。なお、オリジナ 品種「とちぎの星」が 増加傾向にある。

菜 (生育)	(生育技及等)  ・4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月22日頃(平年より1日早い)、「粒すけ」は6月22日頃(平年並)に幼穂形成開を 週末ている。  ・また、5月1日に移植した「コシヒカリは6月28日頃(平年より1日遅い)から幼穂形成開となる。 (千葉集 6月28日付)	【向こう1か月の天核の見通し 7月22日~8月21日】 関東甲原地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 海水量と日本細胞制は、12年半息の見込み。 (気息行) (国こう3か月の天核の見通し 7月~9月) 関東甲原地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 海水量は、平生並から収込み。 (気息行) 関東甲化地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象行) 向こう1か日販品米カメムシの免生が多いと予想される。 (最終水産者 7月12日付)	・「コンヒカリ」及び 「なささがわか、を中心と する品種構成となって いる。令句と年度から 新品種・報字け」の本格 栽培が開始
(生育)	【7月10日取在】 (無角性域の宣音状況) 「フンヒカリ」では持種値(生育のあやす)に比べ、幕文は「美い」、茎数は「やや多い」、葉数の進み及び葉色は「韭」の ・ 「コンヒカリ」では持種値(生育のあやす)に比べ、幕文は「美い」、茎数は「やや多い」、葉数の進み及び葉色は「韭」の ・ 「有足力」では持種値(生育のあたも」、「やら長い」、茎数は「多なみ、葉色は「韭」の生育状況だが、物域差が見られる。 ・ 「特別の「特別機能」に比べまますは「重」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「重」、素色は「表い」状況。 (新潟県最林大変部 7月11日付) (オーン、「伊みセンター開発性) ・ 東京・福田北 109%(やや泉)、 圣数:97%(並)、 漢数:指標差・0.3葉(並)。(村上農業普及指導センター 7月12日付) ・ 東京・福田北 119%(やや泉)、 圣数:97%(並)、 漢数:指標差・0.3葉(生)の、(共)、(表別、最初を表別を力を力)、 7月10日付) ・ 東京・北海北 112%・美化、美牧・活剤は100%~中や多い、 漢数:指標差・0.5葉~中や早い。(美国農業普及指導センター 7月10日付) ・ 東京・北海北 112%・美化、 英水・活剤は100%~中や多い、 漢数:指標達・0.5葉~中や早い。(美国農業普及指導センター 7月10日付) ・ 「新文・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	(第)こう・か月の天教の意義」、7月22日・心界71日) 之間地方の原。3 19月2日・東京監社高、1932み。 満年走と日間時間は、日ぼ平年並の見込み。 (気変か着見地方気象色) (前)こうか月の中の原土 17月・0月日 之間地方の一条の原土 17月・0月日 之間地方の一、3か月の中の原土 18年	・「コンヒカリ」及び 「こしいぶきき ぞいらき ぞいらと する品様成で、近年 「コンヒカの別」が減少し、 なったカの別」が減少し、 なったカルリンが減少し、 なった。 ない間にあるから、 ない間にあるから、 ない間にある。 ない間にある。 では、 のではある。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
(生育)	【7月18日版在】 (生育状況)  ・「コンヒカリ」 平年に比べ、東文、実色、実動は途、茎数はやや少なくなっている。幼稚形成期は、平年に比べ1日早い7月10日となった。今後、不生意の気息で推移した場合、出租税は平年より1日年い7月31日最と見込まれる。 ・「てんたかく」 5月3日報心 「たんたんく」の出機制は、近年より日中17月31日となった。今後、平年並の気息で推移した場合、成熟期は8月19日頃と見込まれる。 ・「てんこもり」 平年に比べ、東文、医教、異とは途、実施的に、深速されている。幼稚時成別は、平年に比べ1日週い7月13日となった。今後、平年の元金で推移した場合、出租税は平年にいる。幼稚時成別は、平年に比べ1日週に7月13日となった。今後、平年の元金で推移した場合、出租税は平年い1日間に7月14日県に見込まれる。 ・「富富富」 近年に比べ、東文、医教、異教、異会は並であった。幼稚時成別は、近年より1日早い7月12日となった。今後、気温が平年出に推移すると、出租税は近年より1日早い8月3日頃と見込まれる。  (富山県 7月18日付)	【向こう1か月の天候の見遇し 7月22日~8月21日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 開水量と1日開棚は、延年平息の見込み。 (気象下新潟地方気象を) (国こう3か日の工物の見過し 7月~9月) 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年室か高い見込み。 (高泉が新潟地方気象台) 北陸地方が月28日頃からかなりの高温。 (気象が新潟地方気象台) 北陸地方が月28日頃からかなりの高温。 (気象が新潟地方気象台) から、10月1日日間からかなりの高温。 (気象が新潟地方気象台)	・「コシヒカリ」を中心とする品種様成となっているものもの。質が実力になった。 「一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、
川 (生育)	[6月8日現在] (東太) ・「コンヒカリ」: 平年比55-124% (展平均107%、加賀:104%、能費:110%) 平年第~長く、前年に比べてやや底い。 ・「コンヒカウカゴミ: 平年比50-121% (展平均108%、加賀:105%、能費:112%) 平年に比べてやや底い〜長く、前年に比べてやや底い〜長い。 ・「ひかくまん数]: 近年比50%~123% (展平均108%、加賀:125%、能費:103%) 近年至一長く、前年に比べてやや長い〜長い。 (基数) ・「コンヒカリ」: 平年比70-159% (展平均104% 加賀:105%、能費:101%) 平年及び前年正 ・「かかみプリニ: 平年比41-160% (展平均114%、加賀:105%、能費125%) 平年及び前年に比べてを多い。 ・「ひゃくまん数]: 近年比72-189% (展中均114%、加賀:105%、能費125%) 近年及び前年に比べて並~多い。 ・「ひゃくまん数]: 近年比72-189% (展中均114%、加賀:105%、能費125%) 近年及び前年に比べて並~多い。 ・「ひゃくまん数]: 近年比72-189% (展中均114%、加賀:105%、能費125%) 近年及び前年と比べごを2000 (電齢) ・運動展開は、「コンヒカリ」は平年及び前年を比べ ・「江明県最林総合啓究センター農業試験場 6月9日付)	【関こう1か月の天後の見畫し 7月22日~8月21日】 北陸地元の同こう1か月の平均気温は高い見込み。 時末を1日期間がは、球球平年度の見込み。 (元名の日前の天後の見遺し 7月~9月) 北陸地方の内で、3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 (大泉が新規地方実金) 北陸地方が1月28日域からかなりの高温。 (気化が新規地方実金) 南こう1か月二カメイガ、原直米カメムンの発生が多いと 予想を10月二カメイガ、原直米カメムンの発生が多いと 予想を10月二カメイガ、原直米カメムンの発生が多いと 予想を10月二カメイガ、原直米カメムンの発生が多いと 予想を10月二カメイガ、原直米カメムンの発生が多いと 予想を10月二カメイガ、原直米カメムンの発生が多いと 予想を10月二カメイガ、原直米カメムンの発生が多いと	「コンヒナリ」及び 「中からが注意をわらとする品種構造であるが、 近年、開催でジナル税」 が増加機関にある。
并(生育)	【7月12日開査】 「ハナエチゼン」 ・出版業期は平年より3日程早いところが多く、早い地域で7月11日頃、県全体では7月12~16日となる見込み。 「いちほまれ」「コンヒカリ」 ・農業試験機の移動後の初勤形成期は平年まとなった。 (水田農業レベルアップ委員会技術署及部会 7月14日付)	(向こう1か月の天候の要達し、7月22日~8月21日] 北陸地方の向こう1か月の平均気量は高い9込み。 資本度と日期間は、延年平金の党込み。 (気変す新潟地方気金) (同こう3か月の平均の選出し、7月~6月) 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年金か高い見込み。 (気変す新潟地方気金) 北陸地方1月28日間からなくりの高温。 (気変す新潟地方気金) 向こう1か月ーカメイガ、斑点米カメムンの発生が多いと 予想される。 (義林永盛者 7月12日付)	・「コシヒカリ」及び 「ハナエチゼン」を中心 とする最終機である。 なお、順義使である。 「利用を対し、が増加 傾向にある。」が増加
野 (生育)	【標高1017m原村の原村試験地における水稲生育状況 移植後50日(きらりん、ゆめしなの、あきたこまち)】 ・移植後50日の生育は31音後を引き最後前後のである。「きらりん」では、止葉(第11-12葉)抽出が終了している。 効態形成形は「きらりん」で平年と13日早く、「ゆめしなの」、「あきたこまち」で平年並となっている。 (長野県農業試験後 7月19日付)	「向こう1か月の天核の基連」、7月22日~8月21日】 職業甲程地方の命こう1か月の平均繁型は塩に見込か。 資水連と日期開始は、ほぼ平年室の見込み。 (気象律) (気のからの天核の是連上、7月~9月) 職業平台地方の命こう3か月の平均衰温は平年並か高い見込み。 (気象律) (気象律) (気象律) 関東甲程地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気象律)	・「コシヒカリ」及び 「あきたこまう」で中心 とする基準機に大きな 変化はない。集のナリジ ナル品種、風さやカ」の 導入を推進している。
質 (生育)	【木稲作皮類素 (7月10日時点) による】 ・作足類素 (5月10日時点) には、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とも、算文は平年並、至数は平年より少ない。葉色は「みずかがみ」では平年並、「コンヒカリ」では平年よりやや薄い。 ・幼稚恵成類は、「カチががみ」では6月30日と平年より日産く、「コシヒカリ」では7月5日と平年より2日産く、出種別は「みずかがみ」では 7月20日頃に混るを見込み。 ・集内日準では、移植日や日本条件による生育に養は見られるものの、概ね平年並に幼稚形成類を避えている。 (選責業業技術展典センター 7月13日付)	【同こう1か月の天積の見通し 7月22日~8月21日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 同水金と日本開館は、接往手車の見込み。 (気息下大震管区気を) 【四こう3か月の市均、1200年) 7月~9月) 近畿地方の向こう3か月の市均気温は高い見込み。 陽水電中生命が多り込み。 (成角下大震で展り金)。 (成角下大震で展り金)。 (変角下大震で展り金)。 (変角下大震で展り金)。 (変角下大震で展り金)。 (変角下大震で展り金)。 (変角下大震で展り金)。 (変角下大震で展り金)。 (変角下大震で展り金)。 (変角下大震で展り金)。	・「コシヒカリ」、「キヌ ヒカリ」、「みずかがみ」 及び「日本晴」を中心 とする品種類である。 近年、高温豊勢性に優 れた「みずかがみ」の作 付が推進されている。
(生育)	[6月28日時点] (県 北) 「コシヒカリ」の幕文は平年並、圣教はかなり多く、実齢の連悪はやや早い。 遅続えでは、幕文は平年並、圣教はかなり多く、実齢の連悪はやや早い。 (県北以外) 実齢の進展は平年並~やや早く、幕文は平年並。 (兵庫県 7月5日付)	(向こう1か月の天核の基連し 7月22日~8月21日] 近畿地方の向こう1か月の平板東温度3に見込み。 資本と1年開朝は、ほぼ平年産の見込み。 (気象庁大阪市区気象) (国にう3か月の天核の見递し 7月~9月) 近畿地方の同こ3か月の下板の日地高い見込み。 海水食は平年生かかりが見込み。 海水食は平年生かかりが見込み。 近畿地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪市区気象令) 7月20日頃陽用明け。(気象庁)	・「コシヒカリ」「ヒノヒ カリ」「キヌヒカリ」及 び「山田線」を中心とす る品種様である。 「きぬむすの」の作付拡 大を推進している。
(生育)	・極早生種の生育は概ね平年並である。 (岡山県 6月28日付)	(向こう1か月の天核の豊連し 7月22日~8月21日] 中国地方の向こう1か月の平均東温は高い見込み。 資水を上日無関性、延年年をの見込み。 (気象庁広島地方象を) (気象庁広島地方象を) (知こうからの上の5か月の中均気温は高い見込み。 時本世紀年生むからい登込み。 (気象庁広島地方気象) 中国地方は月27日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象) 7月20日頃陽南明け。(気象庁) 向こうか月いもち角の発生が多いと予想される。 (表材で高地方気象者)	・「アケボノ」、「きぬむ すか」、「コンヒカリ」 「あきたこまら」及び「 ととした」」及び「きぬ むすか」を中心ときる 繊維をあったから、 が増加傾向となっている。
島 (生育)	【7月10日調査】広島県総合技術研究所農業技術センター圏塔(東広島市八本松町) ( )内は平年経 - 「コンヒカリ」(密樹) 幕丈: 71.7 (71.4) cm、 圣教: 598 (491) 本/㎡、 実色 (SPAD種) 42.0 (37.1)、 黒齢10.3 (10.9) - 「あきろまん」(密樹) 幕丈: 62.5 (61.8) cm、 圣教: 622 (533) 本/㎡、 業色 (SPAD種) 40.7 (36.8)、 黒齢11.4 (11.3) - 「レノヒカリ」(密樹) 幕丈: 62.5 (61.8) cm、 圣教: 467 (509) 本/㎡、 業色 (SPAD種) 40.1 (36.3)、 黒齢9.9 (10.8) - 「恋の予悉」(香通樹) 幕丈: 65.6 cm、 圣教: 662本/㎡、 業色 (SPAD種) 33.3、 黒齢11.7 - 「あきさかり」(香蓮樹) 幕丈: 59.4 cm、 圣教: 497本/㎡、 業色 (SPAD種) 42.6、 業齢11.3 - (広島県総合技術研究所農業技術センター 7月12日付)	(第二寸・か月の天教の整備」、7月2日で4月21日) 中国地方の第二寸・少男の平板を選ばなり望込み。 解水を上の無難性、経ビ平準の思えた。 (気象庁広島地方気象) (第二分が内の工物の単位、経ビ平準の思えみ。 (第2分が内の工物の単位、1月7日月) 中国地方の第二分の身の中均気温は高い見込み。 (気象庁広島地方気象) 中国地方は7月27日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象) 7月20日頃略用明け、(気象庁) 向二寸か月いちち病の発生が多いと予想される。 (義教存在第一方月2日日	・「コシヒカリ」、「あき さかり」及び「ヒノヒカ リ」を中心とする品種構 成である。

	(生育状	况等)		
愛 媛		[2023年産「ひめの凜」の生育状況 (7月10日現在)]	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日~8月21日】	
	(生育)	(6月2日経経 7月10日報告)	四国地方の前こう1か月の平均装置は高い見込み。 解末量と日間時間は、日ぼ平年室の見入め。 (集ま庁高松地方集金) (間につうか月の天気の発達し、7年~9月) 回開地方の前につかが月の平均発温は高い見込み。 同業が再松地方集金) の関地方は7月20日地からかなりの高温。 (集ま庁高松地方集金)	「ヒノヒカリ」「コシヒ カリ」「あきたこまち」 及び「にこまる」を中心 とする品種構成し大きな 受化はない。「ヒノヒカ リ」から「にこまる」 への品種変更が定着して きている。
高知			向こう1か月ワマグロ3コバイ、斑点米カメムシ、縞葉枯病、 いもち病、ごま葉枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産者 7月12日付)	
	(生育)	[3月月報] (早類報) 移学期〜出楼院、時期:並、生育:並 ・6月に入って南の日が多いが、幕文は改ぼ平等並、分けつ数は平年並一やや多く、出穂時期は標準生品種、「コシヒカリ」 をもほぼ平等立て開発している。 (書類報) 分げつ期、時期・並、生育:並 ・日報えばほぼ終了し、開闢に生育しているが、一郎で移植後も高いもちの影響を受けているほ場が見られる。 (高知県病害虫助除所 7月4日付)	(向こう1か月の天候の産産し 7月22日~5月21日 回販地方の向こう1か月の平均配益は高い見込み。 開水業と日間時間は、ほぼ平年室の見込み。 (東京市品化力気策会) (向こう3か月の天候の見通し 7月~9月 回販地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 開水製は平年電か多い見込み。 (表京市品化力気策合) 回販地方の時か気策合) 同こう1か月797日31かく、致点米カメムシ、額業結構、 いも5歳、ご業業高級の発生が多いと予想される。 (最林外産者) 7月12日付、	- 早期教徒「コンヒカーリリー 書楽がは「ヒカーリリー 書楽がは「ヒカーリリー を中心とする品種構成に大きな変化はない。
福 田	(生育)	【毎月15日現在】 【毎月15日現在】 【毎月15日現在】 「夢つくし、コシヒカリ) ・田田天後、多雨の影響により、恵文は平年よりやや高く、逐数は少ない。ウンカ類の発生は確認されていない。・4月下旬柚えの出種別は7月4年収収で、平年よりやや選くなる見込み。 【番道原水銀] (夢夕くし、ころ気づくし、ヒノヒカリなど) ・西の生育は塩和間間、青苗前の子気をは今後により、一部で報道をや高気の発生が思られる。 ・現在、支援機会の2番でも田屋よが始まり、平田地の「夢つくし」は6月上中旬、「元気づくし」は6月中下旬、「モノヒカリ」は6月下旬が重視とるを支払み。 (福岡県農林業総合試験場 6月22日付)	【向こう1か月の天枝の見遺し 7月22日~8月21日 入州北部地方の向にう か月の平均気温は高い望込み。 熱水泉と日間を気象をう。 (気象が福間を近気象を) (気まが福間を気象を) (気まが福間を気象を) (大きないないまして、1月~9月) 九州北部地方の3か月の気温は高い望込み。 熱水量に平電か多い思えか。 (気象が福間を気象を) 大州北部地方は7月2日頃からかなりの高温。 (気象が福間を気象を) 大州北部地方は7月2日頃からかなりの高温。 (気象が福間を気象を)	・「ヒノヒカリ」「夢つくしなび「水を204」「大変では構成しませます。 しなび「水変をは構成しまからが「原本のは構成してあるが」「原本のではなっている。 境では「実とつくし」の 様大を推奨している。
熊			(前こう1か月の天候の見通し 7月22日~8月21日 九州北西地方の向こう 1か月の予切気温は高い見込み。 時本量と日間時間は、採従平平島の見込み。 (気が7届間世区気象) (同こう3か月間世区気象) (同こう3か月の2か月の気温は高い見込み。 所本世十年後か多い見込み。 (気象が4届間世区気象) (気象が4届間世区気象) (気象が4個間で気象を)	・「ヒノヒカリ」「森の くまさん」及び「コシ ヒカリ」を中心とする 品種様成である。 「くまさんの輝き」は リーディン記録として取扱いが年々拡大し ている。
宫 *	(生育)	【作物の生育状況 (6月中旬】 ・早期水稲は継ばらみ期、普通期水稲は移植前後。 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月30日)	【向こう1か月の天枝の見遺し 7月22日~8月21日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 時期をあった。 「気変作出見場か方気金か」 「気変作出見場か方気金か」 九州南部地方の前につ5か日の気温は高い見込み。 大大衛南地方の前につ5か日の気温は高い見込み。 大大衛南地方の前につ5か日の気温は高い見込み。 「気変作出見場か方気金か」 「気変作出見場か方気金か」 (気変作出見場か方気金か) (気変作出見場か方気金か)	「コシヒカリ」及び「ヒ ノヒカリ」を中心とする 品種構成に大きな変化は ない。「不素が到、への 作付誘導が進められてい る。
鹿児』		57後本音後後、用金属器療術をよべ一ヴマの名I、Y113章数を金属器機構展布等以集系。	【向こう1か月の天枝の見遺し 7月22日~8月27日】 九州南部地方の向こう か月の平均気温は高い見込み。 対象が自然を力を発うし、7月~9月 (集) 1000円のこうか月の気温は高い見込み。 海水電池の方を200円の気温は高い見込み。 海水電池の方のこうか月の気温は高い見込み。 (表) 200円のこうか月の気温は高い見込み。 (表) 200円のこうか月の気温は高い見込み。 (表) 200円のこうか月の気温は高い見込み。 (表) 200円のこうか月の気温は高い見込み。 (表) 200円のこうか月の気温は高い見込み。 (表) 200円のこうか月の日間からかなりの高温。 (実) 200円の高温は高い見込み。	- 早期栽培は「コンヒカリ」 普通能増は「ヒノヒカリ」 を中のとする品種構成で ある。早期栽培では、収 豊大本の流い「なつほの か」への移行が急速に進 んでしる。

| 並 1:国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公産している資料を未開機器情報整で取り能め。 並 2:生常改革等 (自治体等公産資料の連携) については今初6年7月20日 16時時点での取り組め。 並 3:夏朝信所は非平で示した。

## 引用資料:

```
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道農政部 7月6日)、
展作物の生育状況(月1日現在(北海道展収部 /月6日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合接興局 7月6日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道石狩接興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月6日)、
展下初の土育が応 7月1日現在(北海道門山坂栗崎 7月6日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月6日)、
農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月6日)、
農作物の生育と農作業の進ちょく状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月6日)、
                                   14日時世
                                                                             青森 https:/
7 中40千度水幅工育ル州崎直結末304(岩子県展業研究センター 7月16日)、
今和5年産水稲の生育状況について(7月10日現在)(宮城県みやぎ米推進課生産販売班 7月11日)、
令和5年稲作情報第5号(宮城県互理農業改良普及センター 7月11日)、
仙台稲作情報2023(第5号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月11日)
加口油田Fiff報2023(用397)(邑郊県加口最楽収民晋及センター 7月11日)
今和5年産賃組密 南三陸船作情報第6号(宮城県英山保護教政食普及センター 7月12日)
令和5年産美里地区の稲作情報第6号(宮城県美里農業改良普及センター 7月11日)、
栗原の稲作通信令和5年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月12日)、
福作情報(Viol.6)(宮城県石巻農業の食普及センター 7月11日)、
生育状況報告(秋田県ホームページにまちチャンネル)http://www.e-komachi.jp/ 7月20
を行むといかり日と付わり、の人工を出るとは、新生物ではアー
                                                                                         .e-komachi.ip/ 7月20日閲覧).
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまらチャンネル」http://www.e-komachi.jp/7月2 縮作だより第10号(村口総合支庁に材力出農業技術普及課7月11日)、おいしい米づくり情報第10号(山形県庄内総合支庁農業技術普及課7月12日)、福作だより第9号(西村山農業技術普及課7月10日)、西おきた主米づく財情報%00 (西橿馬農業技術普及課7月11日)、主要な農作物の生育情報令和5年度第4号(福島県農林水産部農業振興課7月10日)、農町連報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室7月11日)、農・団工・大阪場に大阪県農業総合・センター農業研究所、北田利田研究室7月19日)、水稲生育診断連報№4(栃木県農政部経営技術課7月6日)、
水稲の生育と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 6月28日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第5号)(新潟県農林水産部 7月11日)、
岩船米づくり情報NA5(村上農業普及指導センター 7月12日)、
稲作速報NA5(新潟農業普及指導センター 7月10日)、
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 6月29日)、
コシヒカリ生育情報第5号(魚沼農業普及指導センター
稲作情報No.5(長岡農業普及指導センター 7月10日)、
                                                                       7月10日)、
福作育報Na5(長岡農業普及指導センター 7月10日)、
南魚沼産コシヒカリ生育連報Na5(7月10日調査)(南魚沼農業普及指導センター 7月11日)、
コシヒカリ・こしいぶき生育連報Na5(6月20日)(上越農業普及指導センター 7月10日))、
令和5年度糸魚川売れる米づくりコシヒカリ生育情報Na5(糸魚川農業普及指導センター 7月10日)、
令和5年度稲作生育連報Na5(佐渡農業普及指導センター 7月10日)、
十日町地域稲作生育速報(令和5年7月11日)(十日町農業普及指導センターほか 7月11日)、
令和5年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-3号)(石川県農林総合研究センター 6月9日)、
福作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月14日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和5年)(長野県農業試験場 7月19日)。
令和5年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月13日
令和5年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県農林水産部 7月5日)、
病害虫発生予察情報について 令和5年度病害虫発生予察6月月報(高知県病害虫防除所 7月4日)、
福岡県の主な農作物の生産状況(令和5年6月15日現在)(福岡県農林業総合試験場 6月22日)、
令和5年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月30日)、
```

北海道地方向こう1か月の天候の見通し(7月20日札幌管区気象台)、東北地方向こう1か月の天候の見通し(7月20日仙台管区気象台)、関東甲信地方向こう1か月の天候の見通し(7月20日気象庁) 北陸地方向こう1か月の天候の見通し(7月20日新潟地方気象台)、近畿地方向こう1か月の天候の見通し(7月20日大阪管区気象台)、中国地方向こう1か月の天候の見通し(7月20日広島地方気象台 四国地方向こう1か月の天候の見通し(7月20日高松地方気象台)、九州北部地方向こう1か月の天候の見通し(7月20日福岡管区気象台)、 九州南部・奄美地方向こう1か月の天候の見通し(7月20日鹿児島地方気象台)、

北海道地方向こう3か月の天候の見通し(6月20日札幌管区気象台)、東北地方向こう3か月の天候の見通し(6月20日仙台管区気象台)、関東甲信地方向こう3か月の天候の見通し(6月20日気象庁) 北陸地方向こう3か月の天候の見通し(6月20日新潟地方気象台)、近畿地方向こう3か月の天候の見通し(6月20日大阪管区気象台)、中国地方向こう3か月の天候の見通し(6月20日広島地方気象・四国地方向こう3か月の天候の見通し(6月20日高松地方気象台)、九州北部地方向こう3か月の天候の見通し(6月20日福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方向こう3か月の天候の見通し(6月20日鹿児島地方気象台)、

令和5年の梅雨入りと梅雨明け(速報値)(気象庁 7月20日更新)、 早期天候情報(7月20日14時30分 気象庁)、 エルニーニョ監視速報(No370)について(気象庁 7月10日)、

「令和5年度病害虫発生予報第4号」(農林水産省 7月12日)、

令和5年産水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月15日)